列方向から見た投入額の計（県内生産額）と、行方向から見た産出額の計（県内生産額）とは、すべての部門について相互に一致しており、この点が産業連関表の大きな特徴となっています。

一般的に、産業と産業のクロスしている部分（中間投入＝中間需要）を「内生部門」と言い、粗付加価値と最終需要の部分を「外生部門」と言います。

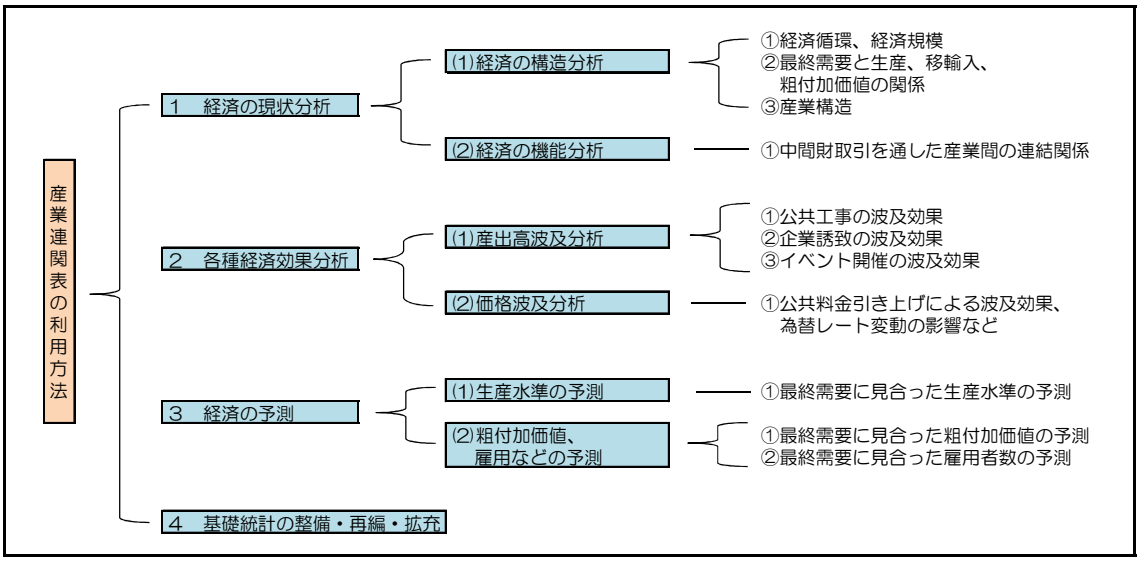
産業連関表のタテ・ヨコの各部門の関係を式で表すと、次のとおりになります。

① 県内生産額 ＝（中間投入額＋粗付加価値額） ＝（中間需要額＋最終需要額－移輸入額）
② 総需要額 ＝（中間需要額＋最終需要額） ＝（県内生産額＋移輸入額） ＝ 総供給
③ 粗付加価値額合計＝（県内生産額合計－中間投入額合計）
＝（最終需要額合計－移輸入額合計）
④ 最終需要額合計 ＝（県内生産額合計＋移輸入額合計－中間需要額合計）
＝（粗付加価値額合計＋移輸入額合計）

なお、①，②については、各行と各列の部門ごとに成立しますが、③，④については、部門全体の合計額についてのみ成立し、部門ごとには成立しません。

２ 産業連関表の利用

産業連関表は、これをそのまま読みとることによって、表の作成年次における産業構造や産業部門間の相互依存関係など県内経済の構造を、総合的に把握・分析することが出来ます。

また、産業連関表の各種係数を用いて産業連関分析を行うことによって、経済の将来予測や経済政策の効果を測定・分析することが可能となります。

主な利用方法をまとめると、以下のとおりになります。